



TRY SHOWA

甲府昭和高校通信

山梨県立甲府昭和高校
 令和4年9月1日
 第63号発行
 電話 055-275-6177
 FAX 055-275-2594

URL <http://www.syowah.kai.ed.jp/>

第39回 紫映祭

令和4年 6月24日(金)・25日(土)

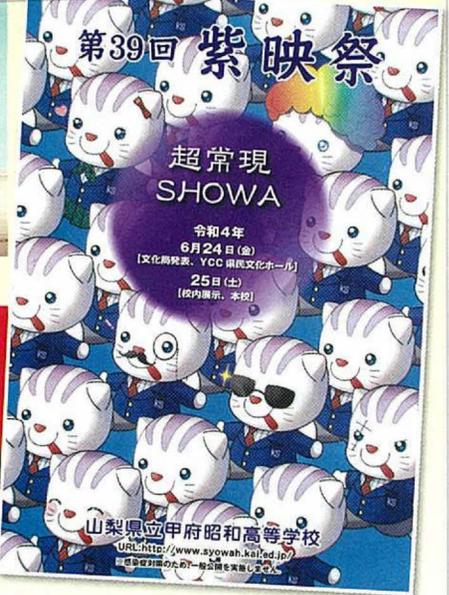
第39回紫映祭は、新型コロナウイルス感染対策を十分に施しながら、実施しました。六つの縦割り団の団長を中心に、全校生徒一丸となる感動の学園祭を作り上げることが出来ました。

◆〈テーマ作成〉3年 橋田奈々佳(北西中) ◆〈ポスター作成〉3年 笠井穂南(玉穂中)

テーマ 超常現 SHOWA



団長ダンス



1日目
 ●開祭式・団発表・文化部発表
 (YCC県民文化ホール)



ダンス部発表



争曲部発表



団旗



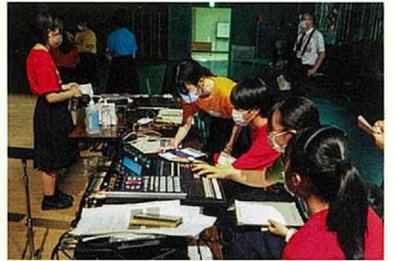
吹奏楽部発表



演劇部発表



客席



音響スタッフ

2日目
 ●校内展示・閉祭式(本校)



クラス企画(3年)



クラス企画(3年)



窓絵(2年)



窓絵(1年)



書道パフォーマンス



中庭出店



クラス新聞



モニュメント

紫映祭で身に付けた「力」 ～討論することで得た「協働性」～

●紫映祭実行委員長 齋城 大和(3年 竜王中)



私は紫映祭実行委員長として、新型コロナウイルス感染がまだまだ収束しない状況の中、感染対策を第一として運営しました。出店で食品を販売できない、大きな声を出すことができない、参加者は校内展示で3年保護者のみという入場制限がかかるなどの様々な制限の中で、自分たちが何が出来るかを考えました。企画段階で、お互いの対立があった時には、納得するまで話し合いをしました。討論することにより、それが私たちのコミュニケーションを深めることになり、結果的にそれが「協働性」の力を身につけることに繋がりました。多くの生徒が人前で話す機会が増え、スピーチする力も身につきました。今回の紫映祭が成功したのは、全校生徒、生徒会本部役員、学園祭実行委員、先生方のおかげであることが、自分が第一責任者の立場に立つことにより、それを強く実感することができました。今後は、後輩たちに紫映祭を引き継いでいくことを意識しながら、紫映祭成功で身に付けた資質・能力を将来の社会生活に活かしていきたいと思ひます。

家庭料理部が英字新聞でエコバッグ制作

「紫映祭」の校内展示発表で、家庭料理部(17名)が、英字新聞を素材にしたエコバッグを制作し、希望者に無料配布をしました。これは、環境配慮のためレジ袋削減が叫ばれている現在、それに替わる環境に優しい袋を自分たちで作り、各自のライフスタイルを見直すきっかけとすることを目的としました。素材が新聞紙のため、プラスチック製の袋よりも通気性が良く、ジャガイモやタマネギなどの野菜を入れる袋として使用するなど、いろいろな用途が考えられます。何に使うかを、もらった人に自由に考えてもらえるよう、いろいろな大きさにしてみました。

右:家庭料理部 部長 3年 青柳 愛子(敷島中)・左:副部長 3年 青柳 理桜(甲府南中)



第48回 UTY教育美術展 美術部 鳥谷君が県教育長賞

山梨県の小中高生の美術に対する関心を高めることによって、美術教育の振興と文化の向上に資することを目的として毎年開催されている第48回UTY教育美術展で、美術部3年の鳥谷英夫君(笹南中学校)の作品「廃墟の国」が山梨県教育長賞を受賞しました。併せて、今大会から新設された「SDGs賞」も受賞しました。

制作意図

タイトルは、「廃墟の国」で、ファンタジーの舞台設定です。太古に戦争が起き、約1000年くらいの時が経ち、生き残った人たちが400年間、この壊れたロボットのある土地に住み着きました。この人たちは、便利ではないが、幸せな生活を送っています。技術力は現在よりも遙かに劣ってはいても、彼らのもつ素朴で純粋なロマンを鑑賞者に感じさせることをテーマにしました。

制作期間

放課後の部活動の時間を使って、約5ヶ月間で制作しました。

工夫(苦労)した点

描かれた人間たちの時代を交錯させ、ノスタルジーを感じる設定にしました。苦労した点は色使いです。特にロボットの肩や腕の金属感を出すのに大変でした。

好きな画家

クロード・モネ(1840-1926)です。モネのほんのりとしたタッチの優しさとはどこか懐かしさを感じる作風がとても好きです。モネの絵を見ていると、陽春の季節の爽やかで晴天の正午過ぎくらいの中にいるような気分になります。

将来の夢

大学の理工学部に進学し、発展途上国の人たちの生活を助けるロボットを開発したり、製作する仕事に就きたいです。



👑 県教育長賞 「廃墟の国」
👑 SDGs賞 ● 鳥谷 英夫

県高校写真連盟春季審査会 写真部が団体県準優勝

2022年春季県高校写真連盟審査会で、本校写真部が県団体準優勝となりました。また個人では、3年の青柳愛子さん(敷島中)が銀賞を、2年の秋山太希君(南西中)が銅賞を受賞しました。(作品審査・評価は、日本大学芸術学部 服部一人先生)



銀賞 ● 青柳 愛子

「今を闘う」

高校総体の陸上競技の選手を撮影しました。背景が暗いので、跳ね上がった水しぶきが鮮明です。ダイナミックなモノクロの写真です。(服部先生評)



銅賞 ● 秋山 太希

「演奏会」

吹奏楽部の定期演奏会のいい瞬間を捉えました。ギリギリまで大きく撮った構図がとても力強い印象を与えています。(服部先生評)

3年ぶりの全校野球応援

雨中の夏の高校野球

7月14日、第104回全国高等学校野球選手権山梨大会で、本校野球部が初戦を戦いました。新型コロナウイルス感染拡大のため、この試合が3年ぶりの全校応援となりました。生徒誰一人、高校野球応援の経験がない中、過年度の応援録画ビデオを見ながら応援練習をしました。試合開始直後から雨中決戦となったこの試合は、生徒応援が試合途中までとなってしまいましたが、全力で野球部の応援をしました。



「総合的な探究の時間」で「SDGs」1分間動画発表会

7月1日の「総合的な探究の時間」に1年生と3年生が「SDGs(持続可能な開発目標)」1分間動画発表会を行いました。1年生は、4名ほどのグループになり、また、3年生は一名ずつ、「SDGs」の17の目標(貧困をなくそう、飢餓をゼロに等)の中から一つテーマを選び、各自の取り組みを促進するためのイメージ動画を制作しました。当日は、各クラスで、プロジェクターに映写して、発表会を行いました。発表後は、各自評価シートに感想などを記入しました。



生徒の感想

● 1年 小野 凱登(押原中学校)

テーマ 「海の豊かさを守ろう」

少年が川にゴミを捨てて、それが海に流れ着き、最終的に魚が食べて死んでしまうという動画を作りました。視覚的に分かりやすく、また訴えかけるようにすることがとても難しかったです。この課題に取り組むことにより、「SDGs」について、深く知ることができました。他の班の発表を見て、これから私たちが何をしなければいけないのかということがよく分かりました。